

地域産学連携センターだより第9号

事務局 研究・地域産学連携担当
内線 2152 E-mail edec@spu.ac.jp

本学は、「地域に根差した」大学として、地域の課題解決や地域との共生・交流を目指した地域連携の取組や学生の地域活動・社会活動の支援を行っています。2023年度に行われた活動の中から、地域産学連携センターが関わった「地域と連携した取組」、「学生の社会活動」を紹介します。

地域連携

大好評！まちなかキャンパスを開催（千間台西地区）

せんげん台駅西口から本学までをつなぐ「くすのき通り」の両側に広がる街が千間台西といわれる地域です。2021年7月から『千間台西連合自治会』と本学とで定期的に意見交換会を開催してきました。同時期に千間台西エリアでは、住民が主役となって地域の課題解決に取り組む場として、『地域支え合い会議』もスタートしています。

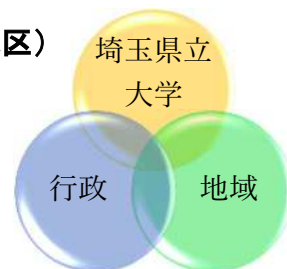
『千間台西連合自治会』と『地域支え合い会議』といった**地域住民**と、『越谷市』『越谷市社会福祉協議会』といった**行政**、そして**本学**の3者が協働して、**まちなかキャンパス**を開催しています。

まちなかキャンパスは、「まちなか」から大学の学びと情報を発信し、地域の皆さんがふらっと立ち寄れる「学びと交流の拠点」を目指し、大学が地域に飛び出して、ミニ講座などを行っています。



参加した住民の満足度は毎回高く、このまちなかキャンパスをきっかけに、「自身の生活を見直すきっかけになった」、「実際に生活を見直した」という参加者も多数いらっしゃいました。

2024年度も引き続き実施していきますので、お近くの方はぜひご参加ください。



大学：事業の企画・運営・運営

地域：企画、運営への協力、広報

行政：会場の提供

【2023年度 まちなかキャンパス開催テーマ】

開催月	テーマ	講師
7月	ぐっすり眠る方法とは？	検査技術科学専攻 有竹清夏教授
8月	スマホ教室	社会福祉学専攻 小川孔美准教授 学生サークル「やどり木 SPU binders」
9月	認知症を予防して生きいき長生き	看護学科 丸山優准教授
10月	膝の痛み教室—膝が変われば人生が変わる—	理学療法学科 小栢進也准教授
11月	運動（身体活動）の重要性と必要性	健康行動科学専攻 北畠義典教授
12月	対話から未来を紡ぐ - 専門職とともにあなた自身のケアの質を高めるために -	社会福祉学専攻 小川孔美准教授
1月	リハビリテーションの本当の意味？～多様性を認め合う地域共生社会の構築をめざして～	朝日雅也 埼玉県立大学名誉教授
2月	お口の健康から全身の健康へ	口腔保健科学専攻 吉田隆教授
3月	ハンドケア（触れるケア）って何？ -ハンドケアを自身のリフレッシュや介護に活用してみませんか！-	看護学科 渋谷えり子准教授

学生の社会貢献活動

県内の自治体や企業などが主催するイベントに本学の学生が多数参加しています。その中でも、地域産学連携センターが関わらせていただいた3つのイベントについてご紹介します。各イベントの詳細は本学ホームページにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

◆「開放特許を活用した学生アイデア発表会 in 埼玉」

2023年12月5日（火）さいしんホールで本年度の発表会が開催され、本学から学生4チームが商品企画アイデアを発表しました。その結果、下記のとおり各チームが受賞しました。今年度は、5大学1専門学校から20チーム88名の学生が出場しました。



《出場チーム1》 最優秀賞
【チーム名】きのりこまあむ（松尾ゼミ）
【アイデア】～ぺらっとめくれば、ふわっと香るブックカバー～「YOMUKA」

《出場チーム2》 審査委員特別賞
【チーム名】笹尾sister's（笹尾ゼミ）
【アイデア】ぎゅっ共！～ぎゅっと安心！みんなのための清潔手カバー～

《出場チーム3》 奨励賞
【チーム名】FIM（鈴木ゼミ）
【アイデア】～つながるお薬ケース～つなおくん

《出場チーム4》 奨励賞
【チーム名】創造旋風（大木ゼミ）
【アイデア】お薬管理を簡単に！服薬クリップ

◆第12回学生政策提案フォーラム in さいたま

2023年11月26日（日）武蔵浦和コミュニティセンターにて、『誰一人取り残さない持続可能な地域社会』をテーマとし、6大学10グループの学生が政策提案の発表を行いました。

【出場チーム1】

- チーム名：FINE（臼倉ゼミ）
- テーマ名：誰も取り残さないカレー屋さん

【出場チーム2】

- チーム名：久保田ゼミ
- テーマ名：「Mystery friendship」さいたま市を活性化



◆第8回かすかべビジネスプランコンテスト



本学の学生が「第8回かすかべビジネスプランコンテスト」にて「ふれあいキューブ賞」を受賞しました。作業療法学科より、チーム「アタッシュケーしゅ」（南雲ゼミ）が、一次審査を通過し、2023年11月10日（金）ふれあいキューブにて行われた最終審査に臨み、地域活性化を目指す政策アイデアを提案しました。

2024年4月からは地域産学連携センターは、【地域連携センター】に名称を変え、これまで以上に本学が「地域に根差した大学」となるよう、学生や教職員の活動を支え、地域の皆様の窓口として活動していきます。